



有機フッ素化合物（PFAS）地下水汚染問題

狛江でも地下水から基準値越えの値を検出 急がれる実態解明



東京都に要請する重国たけし予定候補（2月3日）

れがま検測3年りルリムノで
さらに、していさ月1、当ット（79
にこたいたが計、20たトーグラナ

4月11日のNHK「クローズアップ現代」でも放送された地下水の有機フッ素化合物（PFAS）汚染の対策が急がれます。環境省の資料「PFASに対する総合戦略検討専門家会議（第2回）議事次第・配付資料―水・土壌・地盤・海洋環境の保全」によると、2021年度の調査結果では地下水43地点の基準超過のうち約半数は東京都内です。狛江でも、一ヵ所あたり410ナノグラムなどの暫定基準値の50ナノグラムを大きく超える高い値が検出されています（狛江市では3カ所の井戸から基準値越えを検出）。

昨年「東京民報」が報じた際には、狛江（和泉本町）で、10名のナノグラムについては、「クローズアップ現代」番組中では報道されませんでした。この調査では、高いほうから、立川市（640ナノグラム）、調布市（460ナノグラム）、府中市（450ナノグラム）につづき、狛江市（410ナノグラム）は21年9月計測と、が示されています。

高値がでていることが気になります。東京都は、水道水は基準値を大きく下回る値であることを確認していること、また、基準値を超える値の検出された井戸は取水停止の措置をとっているとしています。が、その原因については解明されていません。米軍横田基地（立川市など）で使用されてきた泡消火剤にふくまれているPFAS（PFOS、PFOA）が地下水脈を通じて多摩地域東部に広がっているという推測もあります。大阪では向上で使われていたPFASが漏出し地下水を汚染していたことが判明しています。実態把握と対応が必要です。重国たけしは、2月と3月に、日本共産党東京都議団の都庁交渉、党国会議員団の環境省交渉に参加し、実態解明と対策を求めてきました。また、4月5日には環境政策課に狛江市としても実態把握と市民への情報提供を積極的に行うよう求めました。公害問題・環境問題は重国たけしのライフワークでもあります。引き続き、取り組んでいきます。

「意見や情報等がありましたら、お寄せください。」